

# 令和6年度 第1回鰯ヶ沢町総合教育会議議事録

## 開催日時

令和6年6月12日（水） 午前10時00分開議 午前11時28分閉議

## 会議場所

鰯ヶ沢町役場 2階 庁議室

## 委員（構成員）

平田衛（町長）、阿彦正弘（教育長）、山崎康裕（教育委員）、田附藤子（教育委員）、尾崎充美（教育委員）、今郁子（教育委員）

## 事務局及び関係者

〔事務局〕 神広丈（総務課長）、神哲也（社会教育課長）、清野守（学校教育課長）、  
岩谷美智也（総務課総務班長）、小沼卓志（社会教育課社会教育班長）、  
三橋美枝子（社会教育課スポーツ振興班長）、碓谷秀雄（学校教育課学校教育班長）、  
〔関係者〕 加藤隆之（副町長）、川浪久和（西海小学校長）、千葉義幸（舞戸小学校長）、  
岩井理（鰯ヶ沢中学校長）

## 次第

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 報告事項 児童生徒の学力と体力について
- 4 協議事項 (1) 学力と体力向上のための対策・対応等について  
(2) 自己肯定感を高めるための教育について  
(3) 個性を伸ばすための教育について
- 4 教育長挨拶
- 5 閉会

## 配付資料

- ・ 次第 ・ 出席者名簿 ・ 関連法令等
- ・ 資料1 国・県の学力調査及び体力運動能力調査の結果報告
- ・ 資料2 協議事項資料

## 議事録

|        |                                                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 岩谷総務班長 | 皆さんお揃いですので、ただ今より令和6年度第1回鰯ヶ沢町総合教育会議を開催いたします。町長より、挨拶をお願いします。                        |
| 平田町長   | みなさん、おはようございます。<br>今日、今年度第1回の総合教育会議ということでご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃から委員の皆様、小中学校校長 |

の皆様、大変お世話になっております。

さて、今日は、児童生徒の学力と体力についての報告の後に、皆さんと様々意見交換をしたいということで、テーマを3つほど設けております。

話が変わりますが、先般テレビで、歴史家の磯田道史さんのインタビューの番組を見ました。

磯田少年は、小さい頃から歴史大好きだということで、あまりにも歴史が好きで、それを親が諦めていたという風な話がありました。そこで親は磯田少年を算数塾に行かせてやることにしました。そうすると、すぐ帰ってきたので、本人に聞いたところ、何時間も座らせられて、延々とドリルをやらされてる。ドリルとかは計算なので電卓を使えばすぐ計算できる、なんでそういうことをいちいちやらなきゃいけない、しかも、答えが1つだけというのは決まってるので、なんでそういうことをやる必要あるのかという話を親にしたそうです。

それを面白い表現でして、自動販売機があって、100円玉を入れたら、何かの答えが1個出てくる。こういうことをすると、逆に自分は果たしてこんなことをしていいのかという、悪いことをしてるんじゃないかという風に思ったとのことでした。

そこで、親がどれだけ言っても子供がそうなので、もう塾に行かなくてもいいんだよと言ったそうです。以来、大好きな歴史の勉強に走ったそうです。それが今、日本を代表するような歴史家になったという風になってるわけです。

私はそれを見て、ネットで様々調べてみました。いわゆる日本の教育ってというのは一般的に、学校に行けば学科の勉強をするわけで、その学科で全て評価されるんです。できる子、できない子っていうのは、当然そこは出てくるんですけども、結局、その評価だけでいくと、あまり成績が良くない子っていうのはどうしても劣等感を感じるし、学校も嫌になってくる。調べていくと、日本の小学生は非常に自己肯定感が低いという結果が出ていたという話がありました。これは、その学科で色分けされるだけで、それが原因とは言えないかもわかりませんが、非常にその自己主張をすることが少ない。欧米が8割ぐらいはその肯定感が高いんですけども、日本は45パーセントぐらいで非常に低いという結果が出ていたというのを見ました。ただ、日本人っていうのはあまり上昇しない。例えば、今までの社会でも、やっぱり謙虚にというのが、ずっと今までの日本社会、それが美德みたいになってきたと思いますので、なかなか自己主張しない子が多い。そういう風な状況だと。ただ学科で色分けされ、上下優越つけられる中で、やはり一方で個性を伸ばす、自己肯定感を高めるような子供っていうのは、果たして今の日本、鰻ヶ沢の中でどういう風になってるのかっていうのを思いました。これから鰻ヶ沢、日本を背負って立つ子供た

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>ちがこのままでいいのかなという1つの疑問が湧きました。例えば、磯田道史さんのように、歴史を徹底してやることや、例えばアインシュタインも小さい時はともに話ができないノロマって言われた子だったのが、家庭で親が一生懸命うまく個性を伸ばすようなことをしたら、最終的に、ああいう天才学者になったという記事も見ました。これからはそういった個性を伸ばす、あるいは強みを生かすような、そういうことを議論していくべきではないかと思ひまして、今日はそういうテーマにさせていただきました。</p> <p>こういう風に一口に言っても、なかなか難しい問題だと思います。鯉ヶ沢町はふるさと教育ということでかなり前から徹底してやっていますが、個人的に結果は出てると思います。そこにプラスして、個性を伸ばすようなそういった教育も考えて、実際に実践していくということも必要ではないかという風に思ひまして、この総合教育会議の場で議論したいということを教育長にお話をしましたら、こういう形のテーマになりました。</p> <p>教育長に聞いたところ、青森県の教育方針の中では、知育と徳育、これの平均的な子供を作ろうということになってるみたいです。平均的なものでいいので、プラス個性を生かす教育を、私は、ぜひ皆さんと一緒に話ししたいと思います。今日は1時間という短い時間ではありますが、皆さんと意見交換させていただきたいと思います。また、コミュニティスクールの中でもですね、そういったことも議論していただきたいという風に思っております。今日はよろしくお願いいたします。</p> |
| 岩谷総務班長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは協議事項に入らせていただきます。</p> <p>総合教育会議設置要綱第4項の規定により、町長が会議の議長となっておりますので、ここからの進行を町長にお願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 平田町長   | <p>はい。それでは、進行させていただきます。</p> <p>まず、3の報告事項ということで、児童生徒の学力と体力について、国、県の学力調査及び体力運動能力調査の結果報告をお願いしたいと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 事務局    | <p>－資料にもとづく説明－</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 平田町長   | <p>報告事項については説明したとおりです。これを踏まえて、4番、協議事項に入ります。</p> <p>今の結果を踏まえ。まず1つ目の学力体力向上のための対策、対応等についてということで、皆さんからご意見をいただきたいと思います。説明について、質問等がございましたら、皆さんからご意見をいただきたいと思います。</p> <p>感想でもよろしいので、何かありますでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 尾崎委員   | <p>はい。学力の件が数字で出てきてるんですけど、この他にこの学習状</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 況調査では、学力以外のこと、家庭での生活習慣に繋がるような調査項目も入っているのでしょうか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 阿彦教育長 | はい。生活の様子、家庭の勉強時間、睡眠時間などをアンケート調査でやってます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 尾崎委員  | その結果について、鯉ヶ沢町の小中学校の方で、特徴的な結果は現れているのでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 教育長   | あります。それについては学校の先生のほうが詳しいです。川浪校長からお願いします                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 川浪校長  | 西海小の場合、CRT 学力検査という学力テストを 1 月に全学年で行っています。その中に質問として、アンケート調査が入ってきます。<br>それをまとめて、西海小の特徴としては、教科に対する興味・関心、教科に対する粘り強さ、教科に対する自信という項目が 3 つありますが、その中の粘り強さという部分が全国に比べて低いです。全学年ではないんですけど、学年によって高い学年もあれば、ずっと低い学年もあるっていうのが、特徴的だなっていうのを感じていました。                                                                                                                                                                              |
| 平田町長  | 家庭の状況はどうなのでしょう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 川浪校長  | 家庭の状況にこう関係して、昨年度から小中連携して、ゲーム機やネット利用に関する約束事を各家庭で決めましょうというのを小中連携して取り組んでいました。<br>どのくらい守られているか、時間を設定している、週に 1 日とか 2 日、ゲーム機やネット利用をしない日を決めてますかなどを、学校に応じて決めて、そのデータを去年取ってます。これによるとどうしても、学習に関するネット利用は除いて、遊びに関するネット利用、いわゆる動画視聴とか、ゲーム機の利用となっており、極端な話、1 日 6 時間以上、7 時間以上など高いデータも出ています。それは小学校でも同じような傾向で、やはりネット利用が長いと、学力的にも低いとか。この決まりを守られている学年は成績も小学校でも CRT 見ても高いんですけど、守られていない学年はやっぱり低いので、保護者の意識とかもかなり関係しているのかなという風に捉えていました。 |
| 平田町長  | ありがとうございます。千葉校長お願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 千葉校長  | はい。舞戸小で特徴的なのは、月曜日の欠席率が高いです。<br>高学年になるにつれて、ゲームやネット、動画視聴などの時間が増える、週末に増えてしまうっていうところもあるし、その他にも、スポーツクラブに所属してる子供たちが土日にスポーツイベントに参加して、それで体力気力を使い果たして月曜日休む子が結構多いので、その辺のバランスが課題と思いました。                                                                                                                                                                                                                                  |
| 平田町長  | 岩井校長、お願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 岩井校長  | はい。本校に限らない話だと思うし、今の話もそうなんですけども、やはりネットの視聴はアンケートだけではない、実際のところ利用時間がもっと長かったりとか、それこそ保護者の方でもわかっている                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>が、そのルールを定めて守っていく家庭と違って、黙認まではいかないが、それこそ緩いところがある、そういう傾向は声としては色々と聞いたりすることがあります。</p> <p>そして、それだけの原因ではないと思うが、とても眠そうにしている子供、授業の内容によってはもう伏せてしまうような子供の姿も授業中見つけられます。ゲームだけでなく、クラブチームに参加している野球クラブなどでは、土日練習とか試合があることもあるので、疲れていると、そういう意味で眠くなっているというケースもありますし、明らかにこれはYouTubeの見すぎみたいな感じの、朝からとても睡眠不足だという感じで登校している子も中にはいるので、アンケートだけでない、そういった実態の部分を感じられるのが中学生だと思います。</p> |
| 平田町長  | こういう状況ですが、尾崎さん、よろしいでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 尾崎委員  | <p>なかなか難しいところがありますね。</p> <p>この話から離れるかもしれませんが、タブレットは家に持ち帰って勉強ができることにはなっているのでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 千葉校長  | はい。舞戸小では高学年が持ち帰っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 岩井校長  | 鰯ヶ沢中学校では持ち帰っての学習の実績はございません。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 川浪校長  | 西海小学校では、今月から6年生に試験的に持ち帰らそうと思ってました。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 尾崎委員  | 結果、それが家庭学習につながっているのですか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 千葉校長  | 舞戸小の場合は、計算、漢字等のドリル的なものもそうなんですけど、タブレットで動画が撮れるので、小学校の場合は、多くの学校で教科書の音読を宿題にしている、音読カードっていうのを持ち帰らせて、保護者に聞いてもらい、保護者のサインをもらう活動を長年やってるんですが、本当に保護者に聞かせたか、これは保護者のサインなのか、という怪しいものが多々ありました。タブレットを使うと、タブレットで自分が音読している動画を自撮りして、それを先生に送信するという提出の仕方ができるので、ごまかしがきかないやり方が可能になりました。                                                                                           |
| 平田町長  | 尾崎さん、よろしいですか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 尾崎委員  | はい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 平田町長  | <p>他に皆さんありませんか。</p> <p>ほけん福祉課でやっている、健康調査の状況というのはどういう感じですか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 阿彦教育長 | 結果でしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 平田町長  | 毎年出ている結果ですね。これは学校でも説明しにうちの方で行ってますよね。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 阿彦教育長 | <p>そうです。参観日などに来て、親子を対象に、個別に説明してます。</p> <p>中学生とはいえ、やっぱり血液検査をやると、将来の成人病予備軍っ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | ていうのが結構いるらしく、それに対して、家庭で食生活とかそういうのをちゃんとやりましょうということを指導しています                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 平田町長  | その傾向にあるっていう部分では、データの的に活かされているのかどうかということですか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 阿彦教育長 | はっきりそのこと聞いたわけではないんですけども、その中で説明はしてます。ちょっと脂質高いなど。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 尾崎委員  | <p>今の健康の話ですけど、小学校中学校のデータがこうやって出てきていますが、例えば脂質のことであっても今こういう結果になってますから、保護者と生徒に対してもいろんな指導、理解を求めている部分があります。それがすぐ明日、明後日に出てくるようなものではない時間がかかるものだと思います。</p> <p>もしできるのであれば、高校でその数値がどういう風になってるのかということも、追跡っていうことになるのかどうかはわかりませんが、そういうところまで比較すれば、鯉ヶ沢町における小中の指導・施策が、しっかりしてるんだとか、足りないとか、そういうことがわかってくるかもしれません。思いつきではありますがそう感じました。</p>                                                                            |
| 平田町長  | <p>なるほど。はい、ありがとうございます。</p> <p>結局大人になってからの、その生活習慣病予防ということで、中学校からやってることです。今すぐ町でどうこうという話にもなりますけども。他にありませんでしょうか。</p> <p>報告が上がった中で様々な課題っていうのはもうはっきり見えてますので、それに対してこれから教育委員会としても学校の先生方としても今後どういう風にまた推移していくかということで、しっかり見ていければという風に思っております。</p> <p>ほかに何かありませんか。</p> <p>次に２番目、自己肯定感を高めるということで、非常に抽象的なテーマではあるかと思います。</p> <p>先ほどは挨拶の中で様々なお話をしたこともありますが、このことについて皆さんから意見を伺う前に、教育長の方からこの課題について、説明をお願いいたします。</p> |
| 阿彦教育長 | <p>はい。資料２ご覧いただけますでしょうか。２つの課題の提案理由を書いてあります。最初に、自己肯定感を高める教育について。この自己肯定感は、３ページ目の方にも書いてありますけども、自分を肯定する感情です。ありのままの自分を肯定する感情、そういうものが自己肯定感と言われてますけども、日本の子たちは高く保てないというのがあります。理由としては、国際調査では、諸外国に比べて日本人、大人も含めてすごく肯定度が低いという結果が出ます。OECD、世界的な学力調査というもので、個々の部分を日本の高校生と書いてしまったのですが、正確には１５歳の生徒です。自己肯定感が世界の中で低いと</p>                                                                                              |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>いう結果が出ています。また、町内の小中学校でも、先ほど尾崎先生から指摘、ご質問があった全国学力学習状況調査のアンケート調査の結果でも、全国平均に比べて自己肯定感はちょっと低いということもあり、町内の児童生徒に、自己肯定感を高めて、自分に自信を持ってたくましく生きてほしいということが提案の理由の1つであります。2つ目の方の、個性を伸ばす方で、先ほど町長からお話がありました通りですけども、私は町長から紹介された、歴史学者の磯田道史のそればかりやってる自分は自動販売機になる、そう思った子供の発想自体はすごいなと思いました。そこから自分の好きな歴史にまい進していくという話は、古い話ですけど、エジソンも同じですね。やっぱり学校から個性的で追放されたっていうのを親が仕方なく、彼が好きな実験できるようなそういう環境を与えたとかっていう話で、その個性を伸ばす教育っていうのは、つまみ上げるとそれに引きずられて全部持ち上がってくるものだと思います。だから個性的なところ、いいところをこう引っ張っていくと、それ以外の人間のいろんな部分の良さもこう一緒に上がっていくんだっていうような話に似てると感じながら話を聞きました。決して勉強とか得意ではないけど、それをベースにして、さらにその個性を引っ張り上げていけばもっといろんなものがレベルアップするという、そういう話だと思うんですけども、そういうものを今回話題にして、皆さんとご意見交換したいと考えていました。決して結論が出る話ではないと思いますけども、お互い話を聞きながら、自分のことは学校で教師にも生かしていければいいし、教育委員の皆さんは地域の子供たちに還元できたらいいなっていう風な話でもって提案させていただきました。以上です。</p> |
| 平田町長 | <p>かなり2と3は関連するような感じもするんですけども、とりあえず順番で、まず2番の自己肯定感、これ高める必要があるのかという風に言われると、詰まることもないわけではないですけども、皆さんのそういうある程度の想い、例えばその学校でもそういったことを引きだされていると思いますので、その辺も含めて皆さんから意見をいただきたいと思います。先生方、なにかご意見ありますでしょうか。川浪先生から。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 川浪校長 | <p>はい。自己肯定感っていうのは、自分には何か1つでもいいこと、いいところがあると思えば、自分に自信がつくっていう、自分への自信だと捉えてやってきました。自信をつけさせるためには、周りから認められるとか、先生から認められるとか、周りの友達から認められるという、それは自己有用感なので、自己肯定感を高めるためには、自己有用感を高める必要があるっていう風に捉えてます。普段、先生方や子供たちも、学校生活として、例えば貢献感を高める特別活動って喋るんですけど、縦割り班活動、1年生から6年生までの異学年が混じった活動をすることによって、6年生は下学年のお世話をし、下学</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>年に認められるとか。春に、1年生が校内の探検をするんですけど、その案内を2年生が案内してあげると、1年生は2年生に対して敬うし、2年生は1年生に認められるので、そういう活動を続けるようにしています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 千葉校長 | <p>OECDの調査で、日本人の自己肯定感が低いってニュース、確か2～3年くらい前のデータだったと思うんですけど、その時に、本当に自己肯定感が低いわけではないっていう説も多々ありました。先ほど町長が冒頭でおっしゃいましたけど、日本人の謙遜文化、自己主張、無理しないで遠慮し、譲り合うとか、そういう風に育ってきてしまったので、自信満々に振る舞わないとか、そういう風に日本人って育てられてきているので、自分に満足しているとか、自分には価値があるとかっていう質問項目に丸つけられないんです。自慢してるみたいだそうで、自分はダメな人間だと思うと謙遜して丸つけるんです。この調査自体は本当に日本人の自己肯定感を低いって言えるかどうかかわからないっていう説も結構あって。でも、自己肯定感がだんだん低くなるっていうのは目に見えてるというのもあります。幼稚園時代とかは家族の中で親に見守られて、可愛がられて、自分が1番で育って生きているんです。自分はなんでもできると思って幼少期を過ごすんだけど、小学校に入ってだんだん学力とかで格差をつけられて、自分は1番じゃなかったんだって気づいていく。自分より優れた人間が世の中にはたくさんいるっていうことにだんだん気づいていくことが、だんだん劣等感を増やしていったって、自己肯定感が下がっていくっていうのは多分明らかだと思うので、そこを下げないために小学校でやってることは、先ほど川浪先生もおっしゃってましたが、やっぱり成功体験を増やすとか、認められる場面を増やすっていうことだと思います。具体的には、算数の時間に、課題が早く終わった子供にミニ先生になってもらって、わかんない子にヒント教えてねとか、帰りの会で今日とても優しかった友達を紹介するとか、係活動で1人1人に一役を与えて、あなたがいなきゃこの学級成り立たないんだっていう風に思わせる仕組みを作ったり、いろんな子供たちが認められる場面を意図的に教師の方で設定して、あなたが存在している理由、あなたはここにいていいんだよっていう安心感とか自尊感情とかを高めていけるような取り組みをしています。以上です。</p> |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。岩井先生お願いします</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 岩井校長 | <p>はい。私も、その成功体験や、あなたがいてくれたおかげで助かったってというような、そういう毎日の小さなこと、係活動であってもそうですし、何かグループで話し合った時でもいい意見を出したとか、そういうような日常の小さいところから拾って、今の話良かったよねとか、なかなか上手にまとめるよねとか、こういうこと気がついてくれたので助かったよってというような、やっぱり先生たちがそういうとこ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>ろを言うことによって子供たちが真似をするんですよね。そういったことを繋げていくと、自分も人の役に立っているんだなっていう気持ちが高まると思ってます。</p> <p>小学校のように、縦割り活動っていうのは、中学校になるとかなり少なくなるものですが、その中でも、先日行われた運動会の応援では、3年生が考えたものを1、2年生に教えてやってもらうとか、また、部活動の先輩が練習の中心になって後輩にっていうような、そういう場面も、縦割り活動という言い方はしないけどできるわけです。</p> <p>じゃあ勉強はっていうと、ここが難しく、学級で、例えばその授業中に、今ミニ先生っていう話があったんですけども、ここに劣等感が出てくるのでしょうか。教える方は成績がいい、そしてなんでもできる、いつも自分は分からない方にいる、要するに成績で言えば下の方であると。そういうところには、自分は勉強ができないからとか馬鹿だからとか割と平気で言うし、どこかでそういうセリフを家族の中からも聞いてきてるのかもしれないし、そういう子供たちに光を当てる機会がないかなと思ってやってはいないんですけども、学年をオープンにして、さっきの運動会とか部活のように、先輩が後輩に勉強教えるというようなことがあると、1年生の内容であれば、2年生、3年生はもう習っているので教えることができる。自分は学年の中にいたら教えてもらう側だったのに、後輩には教えてあげることができるとか、そういうことで、自分も役に、勉強の方でも役に立ってるんだなっていう思いを持たせることができないかなっていう風に、これは私の頭の中でまだ構想でおろしてないんですけども、そういうことが月に1回ぐらいできればいいかなっていう風には今考え中です。</p> |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>委員のみなさんから何かありませんか。</p> <p>学校、地域、家庭も含めてのご意見でも結構ですけど、なんかありますか</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 尾崎委員 | <p>はい。私の感覚としては、自己肯定感が高まる教育、個性が伸びる教育という感覚も1つ大事なのかなっていう風に思います。それから、今校長先生方がおっしゃった、その自己肯定感の半分が、あくまでこれをこうやれば、この行事でこれやればというのはそれだけじゃないと思います。校長先生方のお話の中に出てきた、普段のこの日常生活の中で、すごくこう、注意してっていうか、で、それもあって、常に育っていくのかなという気がしました。</p> <p>例えば自己肯定感が育つ、例えば授業とか運動会って、私が考えた時に、運動会というのは、すぐ結果が出ます。1番の人と最下位の人とで、それだけが評価ではないという考えの方がいいんじゃないかなと思います。自分にとって、ビリであっても、自分が目標としてた走りのできたっていうのであれば、それは自己肯定感に繋がっているのか</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>なと思いますし、そういう感じでも聞いてました。以上です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 平田町長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>家庭の役割と地域における役割について、皆さんご意見ありませんでしょうか</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 田附委員 | <p>自己肯定感を高めることについて考えた時に、子供だけでなく、親や周りの大人で自己肯定感が低い人が多いので、そこからまずアプローチしていけたらなっているのを今回思いました。高めることについて色々調べると、成長したところを褒める、認めるなど、まずは子供の話を聞くっていうのがいかに大事だっているのもあったんですけど、突き詰めていくと、やっぱり自分は自分でいいと思える。あるがままの自分を受け入れて好きになるとか、存在そのものを認めてあげるっていうことは、やっぱり1番自己肯定感を高めるために必要なんじゃないかなと思います。学校という手段の中ではどうしても比べてしまうので、それは家でも失敗したら怒られるとか、ちょっと出来ないことがあれば注意されるとか、そういうこともあって、否定されて自信を失くしていくのもあると思うので、これも親の方が先にこの自己肯定感を上げるっていうことを勉強していけたらと思います。子供が幼ければ幼いほど、本当にこの親の声かけがすごく重要で、見守ることの重要性。なにかしてる時につい口出ししてしまうんですけど、それをじっと見守るっていうことの大事さに早く気づいてほしいです。私も早く気づきたかったんですけど、もうそれを早く気づいてほしい。接し方を入れていけるチャンスをもっと早く親子で勉強していけたらなと思って。この親子で学んでいく時に、じゃあ何ができるかって思った時に、ちょっと視点ずれてるかもしれないんですけど、去年ぐらいからちょっと気になっていました、無意識の追い込み、偏見、バイアスっていうらしいんですけど、去年から気になって。CMとかでも、ACジャパンかなんかのCMでもあって、面白いなと思ってたんですけど、無意識の思い込みを外していけたらと思っています。この無意識の思い込みっていうのは、私たちがこう見たり聞いたりした時に、実際どうかっていうことを別にしても、そうだと思い込んでしまう無意識に思い込んでしまうことを、外していくのができたらなと思って。例えば、男性はこうあるべきだとか、女性はこうあるべきだとか。子供で言うと、女の子はこうだとか。男の子の髪は短くしなきゃいけない、長くしたらちょっとおかしいなど、気づきがすごく大事なのかなと思います。そうすると、周りの見方も変わっていくと、思いやりや、また自分の可能性も広げていけるんじゃないかと考えます。自分はこれこれこうだからできないっていう思い込みもやっぱりすごく強いと思うので、ちょっとこの無意識の思い込みっていうことに対して勉強していけたらなと思います。自分にできないと思っていたことが、これに気づくことで、できることが増えて、嬉しいとか楽しい</p> |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>で、自分を好きになって、自己肯定感が高まっていけるのかなっていうのもちょっと思います。それも親子で、親もやっぱりちょっと勉強してきて、周りの大人もそうですけど、親子で勉強していく機会があればいいのかなと思います。全国的に小中でもこれをやってる学校もあって、実際子供の声も、いかに自分がこういう風に思ってたんだっていうのに気づいたっていうのも実際あるみたいなので、こうやって自己肯定感が高めていけたらなと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>今委員、なにかありませんか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 今委員  | <p>私は単純に、自分の家庭だったらどうしたいかっていうことを考えてみました。専門的なことは本当にわからないんですが、子供が伸びる言葉を探して声をかけてあげたいと思いました。例えば、こうなりたいためとか、ポジティブなことがあると、例えば、ここを直すためっていうのを伸ばすためにはどうしたらいいとか、そういう言葉のちょっとした言い方で、本人のこの自信に繋がる言葉をかけたいと思いました。嬉しいことに目を向けるポジティブな心を育てていければ、明るい心とか、前向きな心を養っていくことができるのかなって思います。そこは多分一環に過ぎないと思うんですけど、体力、学力とかのことで勉強ができていいとか、走るのが早いのはいい子なんだ、そういう子なんだっていう、そんな気持ちを、それだけではないんだって、1番下にいても、ポジティブに自分の気持ちの中で変えていけるようないい言葉で、心だっていうのはちょっと難しいかもしれないんですけど、心が育っていけばいいのかなって、そう思います。</p> |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>山崎委員、なにかありますでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 山崎委員 | <p>はい。自分の家の仕事や家事をやってもらい、そういうことをしたら褒めてあげるとか、学力テストでいい点数をとったら褒めてあげるなどをすれば自己肯定感や個性は伸びていくかなと思います。そういった家庭の中の親との関わりの延長で、地域とも関わっていくと思います。町内の清掃であったり、祭りであったり、イベントであったりっていうことで、親とくっついていて、地域の人たちと交わる。そうした中で交流が深まると思います。特に安全上、バス通学になって、バス停までは歩いてるけど、そこから子供たちの姿が見えなくなっているのがあって、やっぱりそのイベントや祭りの場で、地域との関わりを増やして子供たちの出番を増やして機会を作って、皆と一緒に子供たちの成長を見守っていければと思います。</p>                                                                                                     |
| 平田町長 | <p>大丈夫ですか。はい、ありがとうございました。</p> <p>3つ目の個性を伸ばす教育を進めるにはどうしたらいいかということで、これはまず校長先生方からご意見をいただきたいと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 川浪校長 | <p>西海小で、個性を伸ばす教育に繋がるのかなって思っていることは、</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>色々校外学習に行って、子供たちが専門的な人に実際にゲストティーチャーしていただき、専門的なことを習ったり体験できたりすることだと思います。クラブ活動では講師の方をその地域の方から呼んで、科学的な部分の実験的なことをしたり、音楽が得意な社会教育課の齊藤さんと音楽クラブを実施するとか、我々よりも専門的にやっている方の体験をできるとかだと思います。</p> <p>今年度やってすごくいいなと思ったのは、中学校さんには負担になってるんですけど、中学校の先生が、英語の先生と体育の先生が、英語は6年生に週2時間、体育は5年生に週2.5時間、英語で言うと勢いのあるリズムカルなALTとのやり取りをしている子供たちも違う雰囲気、いきいきしてるなっていうのを感じてるので、普段なかなかできない体験とか先生に教えてもらったりすると、自分もこうなりたいなとか、こうしたいなとか、得意なこれは好きだなっていうのに繋がっていくのかなっていう風に考えています。</p>                                                                                        |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>千葉先生と岩井先生にはまだ着任してから3ヶ月目ということで、具体的に学校の取り組み、皆さんの想いということも含めてですね、ご意見いただけたらと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 千葉校長 | <p>学校で子供たちの個性を伸ばすっていうのはとても難しいなとは思ってます。学習指導要領で決められた最低限の学習内容を履修させることが最低条件なので。それだけで、結構いっぱいになって、個性までという考えはいかないんだけど、今、多様性の社会と言われて、個性を伸ばすというか、多様性を認め合える集団になっていけばいいなとは思っています。私の学校経営の中にも、多様性を認め合える学級作りをしましょうっていうのをうたっています。例えば、a君は、スポーツは得意だけど、勉強ダメだよっていうa君のことを称する時に、その表し方の順番を変えてやる。勉強ダメだけど、スポーツいいよねっていう風に言っています。順番を変えるだけでポジティブ感が増すと思います。その子が認められ、さっきの自己肯定感と関係するんだけど、その子の強みを強調して、肯定してあげるっていう風な見方とか、声掛けとかをしていけば、多分、その子の個性も伸びるんだろうし、自己肯定感も高まっていくんだろうしという風には、思っていました。多様性を認め合い、認め合う集団を作っていくっていうことと、考え方や言葉がけの順番を間違えないようにするというのが、今考えてるところです。</p> |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>岩井校長お願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 岩井校長 | <p>よく個性っていった時に、例えば髪が見た目より、皆よりも長く伸ばして、それは個性だよとか、奇抜な格好してその人の個性だとかっていう言い方をすると思うんですけども、それは個性というものでな</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>くて、先ほどおっしゃった多様性の方なのかなと思ってはいます。個性っていうのは、血のにじむような努力をした結果身につけるものかなと思っています。学校の中では伸ばすチャンスがいくつもあって、勉強はあまり得意ではないけども、先ほどの陸上で、200メートルでそれこそ記録を更新する。これは1つの個性だと思うし、また勉強でも、全然いろんな教科はダメだけど、自分は英語が好きで英検にチャレンジして、将来英語を使った仕事に就きたい。これも個性だと思います。それこそどこの高校に行くっていうのは、そこは個性とはまた違うと思うんですが、その先にある仕事に就く。私たちここにいる皆さん、もし仕事の内容が違っていたり、それこそ職種が違ったり、役場の職員になる人もいれば、学校の先生を目指す人もいれば、企業戦士になりたいとか、ベンチャービジネスを手がけたいとか、これも全部個性だと思うんです。ですから、自分がどういう人になりたいのかってした時に、あなたの長所はここだよとか、あなたの強みはここだよとか、あなたはここが苦手かもしれないけども、これは秀でてるよねっていうところに自信をつけさせるような体験をさせるとか、その場を提供するとか、あるいは遠慮気味になってる子供たちに背中を押してチャレンジやっごらんとか、そういうことから個性っていうのが広がるのかなっていう風に思っています。</p> |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。委員の皆様、ご意見ありませんか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 山崎委員 | <p>自分の娘が中学生のとき、鰯一中と鰯二中が合併しました。人数的にも西海小からきた子よりも舞戸小からきた子が若干多くて、学級会を始めますとなったとき、舞戸小からきた子がどんどん前にでて仕切るんです。西海小からきた子たちはあまりでていけない。小学校にいたときには比較的喋っていた子も出ていけなかったのを聞いて、同じ町内でもこうも違うんだなって思いました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。田附委員お願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 田附委員 | <p>先ほど校長先生がおっしゃってたのと、ちょっと似てるんですけど、多様性ですよ、やっぱり浸透しつつあるんですけど、じゃあそれを認めた上で何ができるかっていうのもちょっと先に行かなきゃいけないのかなって思います。みんなで話し合っていく時期なんじゃないかなと思ひまして、この集団の中で異なる特徴、特性を持ってるもの、ポツポツっていうのを認め合うっていうのが、まず存在するのは当たり前だっていうのを認め合っていくと思います。話し合いは違いをお互いに認め合うところから始まって。やっぱり突き詰めれば、自分のことを好きになってほしい、子供たちに自分がこのままでいいんだと思ってもらえるようなことをそこから、この子はこういうのが好きなのかなとか、これに没頭するとか、それは授業中でも家庭だったら親でもそういうのを見つけていくようにして、そういうのをやっぱり勉強して、そういうのをやっていけたらなと思って、やっぱりそう</p>                                                                                                                                                                                   |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>というのは他者と触れ合う機会をすごく増やしてほしいと思って、それは舞戸小学校と西海小学校、中学校、卒業生とか、あと、他校の方とか、本当にそういういろんな人がいるんだっていうことをまず子供たちに知ってほしいっていうので、いろんな人がいても、やっぱり自分は自分でいいんだよなとか、そこをまず目指してほしいなっていうのが1番です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 平田町長 | <p>ありがとうございました。尾崎委員お願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 尾崎委員 | <p>正直言うと、かなり難しい面があるんじゃないかと思いますし、全部学校では賄いきれない個性ってあると思います。例えばこの子は絵が好きで、絵に興味関心を持っていて、それなりの力も見えてると、そういった時にそれをきちんと育てていく、伸ばしていく、そういうことができる大人がほんとに近くにいるかっていうと、必ずしもその環境はなかったりする。ただし、その個性をそこで抑えると思います。それを認めて、ついでですね、先日、人生を送っていくっていうか、将来そういうことでまた伸びていくってことも考えられますので、そういう1つ言ってみると、その芽を潰さないっていう風なことも1つ、それは個性が伸びるところに繋がっていくのかなと思います。そしてまた、それを、例えば学校でできなければ、その別の過程でできるか、あるいは地域でできる部分っていうのをまた探していくっていうことも大事なのかなって、ちょっと今、そういう考えもしました。</p> |
| 今委員  | <p>自分自身、自分がどういう個性なのかというのは自分でもよくわからないと思うので、やっぱりいろんなことを経験して、自分が興味をもったことに、家庭として、それか学校であったり、尾崎さんおっしゃったように、地域であったり、いろんなところでこう出して、経験させたいなと思います。その中で自分のいいところ、悪いところを団体の中ではこういう個性として捉えていければいいのかなって。それをそのまま伸ばしていくっていうのは難しいことだと思うんですけど、本人の伸ばしが大事だと思います。</p>                                                                                                                                                                          |
| 平田町長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>何か意見ありませんでしょうか。教育委員会の方で、学校の役割、家庭の役割、地域には3つにこうそれぞれ作ってますけども、やはりお話聞くと、学校、家庭、地域、やっぱりそれぞれの役割というか、そこにはあるように思います。皆さんのお話をお聞きして、やっぱり学校と家庭と地域はやっぱり連携、教育連携していくことでそれがうまく子供たちが育っていくのかなということです。例えば尾崎委員の話でも、こっちの道を目指したいと思ってもそばにそういう人がいないとか、例えば、いなくても、例えばこういう人があそこにいると思って教えてくれる人がいなければ、なかなかそこはそっちの方にはいけないっていうこともありますので、やはり学校だけじゃなくて地域もうまく連携していかなければならないのではないかなという風に、思</p>                                           |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>いました</p> <p>今まで1から3まで、皆さんから様々なご意見を伺ってきました。1～3、共通通じて3つ、どれでもいいんですけど、もうちょっと喋りたりないという方いらっしゃいましたらお願いします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>5番目で教育長コメントという風になっておりますけれども、副町長から、まず一言お願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 加藤副町長 | <p>町長、各校長、教育委員の皆様から様々な意見がでましたが、先ほどお話にありました文科省の学習指導要領を消化するなか、いろいろなことをやらなければならないのは働き方改革もふくめ、大変なことと思います。我々が小さい頃は悪いことをすれば、先生に殴られたり親に叱られたりしたのが普通だったものですが、現在は先生たちに子供を預け、教育をまかせてしまっているのかなと感じているところです。</p> <p>一番感じたのは、今日のテーマである自己肯定感、個性を伸ばすですが、地域、みんなで子供たちを見守り、成長、気付きとか、時には自分の家の子でなくても褒めるとか、あるいはたまに叱るとか、してもいいのかと考えています。地域全体で子供たちを育てて、なにかあっても学校だけでは難しいでしょうし、家庭だけでも難しいし、そこをトータルで考えていかなければならないと思います。3年前から鱒ヶ沢町ではコミュニティスクールというのも始まっていますので、その枠組みのなかで解決できることも多々あるのではと考えています。</p>             |
| 平田町長  | <p>我々子供時代と比べて状況も今は変わってて、先生方もそうだし、家庭、親御さんたちも大変だという風に思っております。</p> <p>今日は様々な皆さんからご意見を伺ってまいりました。それらについて教育長から最後コメントをお願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 阿彦教育長 | <p>今日はありがとうございます。</p> <p>色々課題、問題、難しい内容ですが、全部繋がってるんだなというのが、今日話を聞いて感じました。常々思うのが、人って皆でこぼこがあって人なんだと。多様性を認めるっていうのがありましたけど、本当にそれぞれのでこぼこも色々あって、その出っ張ってるところとか引っ込んでるところは、やっぱあいつはそういう人なんだよなっていうので、認めてあげるっていうのは大事なんだろうと思ってました。自己肯定感を高めるっていうのは、結局個性が認められるっていうところの結果としてそういう気持ちになっていくんだろうなっていうので、最初の話にございますけども、全部こう繋がってる中でも感じたのが、特に子供の場合ですけども、その自分の個性っていうのが自分でもよくわからない。大人でもそうですけど、その個性の良さをみつけてあげるのが大人の仕事なんだろうなと思います。それは褒めるってことは具体的な姿と行動になってるんでしょうけども、そういうところを大人が見つけてあげることによって、自分がこんなにいい</p> |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>いともあるのかなってというのがまず1つの答えになるし、もう1つの軸は好き嫌いで、さっき歴史の磯田さんの話をしてたけど、好きなものがあれば大人のこれもますます安心するものだと思います。それをつきつめていけばもう超個性、そこは個性だと思うんだけど、割と自分も親として子供のそういうのを見てきて、それにのめりこまなきゃいいんだ、例えばゲームとかですけども、ゲームにのめりこむと親は絶対やらせたくないとなると、もうゲームが好きで好きで、それが高じてプログラマーになる子も結構いるし、実際親子プログラミング教室の社会教育課でやってくれてるんですけど、見てるとすごく熱中している子がいます。指導してくれてる先生以上に自分で本を買って勉強して、勝手にプログラムを作るような子が鰯ヶ沢にはいます。そういうようなものがどこまで親が我慢するって言い方はあれですけども、認めてあげられるかっていうのも必要かなと思ってました。あとは、最後、見解ではないですけど、学校の立場っていうと、さっき千葉先生がおっしゃった通り、学習指導要領っていうのがあって、それに基づいて授業をやったり、生活指導するってことで、冒頭の町長の言葉にバランス良くっていう話ありましたけど、教育の基本でそこだと思います。それがもとで、さらにそれを踏まえて個性を伸ばしていくっていうのが我々教育関係者の大事な仕事かなと思ってあります。ちょっと話はまとまりませんでしたけども、いろんな意見を聞きながら、また学校教育の方、また皆さんの家庭、地域での教育に生かしていただければありがたいなと思ってました。またご協力よろしく願います。以上です。</p> |
| 平田町長 | <p>今日は非常に難しいテーマでもありましたけど、皆さんから様々なご意見をいただきましたし、先ほどもお話しましたが、学校、家庭、地域という、それぞれの役割が見えてきたような気がします。</p> <p>今日は結論が出ないということを、教育長が話しましたが、結論は特にここで出さなくてもいいと思います。やはりCSの方で、このテーマで話をしてほしいなという風に思います。</p> <p>今まさに学校と地域等で連携教育していかなきゃいけないっていうことがよくわかりましたので、内容をもうちょっと揉んでいただきたいという風に思っております。いずれにしても、鰯ヶ沢の子供たちをどういう風に育てていくかというのが、いわゆる教育でありますので、そこを、これからも皆さんと協力しながらいい形を育てていきたいという、そういう思いは皆さんも同じだと思いますので、どうかよろしく願いたいと思います。1時間半ですが、ここで閉会となりますけど、本当に今日は皆さん本当にありがとうございました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |